



教生指第375号
令和4年8月24日

各市町村教育委員会教育長 様
各 教 育 事 務 所 長 様
各 県 立 学 校 長 様

埼玉県教育委員会教育長
(公 印 省 略)

児童生徒等の命に係る事件・事故の未然防止について（通知）

平素より、本県生徒指導の充実に御理解と御対応いただいていることに感謝申し上げます。さて、各学校においては、児童生徒一人一人に応じた心のケアに努めていただいているところですが、長期休業中において、児童生徒等の命に係る痛ましい事件・事故が複数発生しており、憂慮すべき状況となっています。

また、18歳以下の自殺は、学校の長期休業明けにかけて増加する傾向があります。さらに、2学期が始まってしばらくしてから事案が発生する傾向もうかがえます。そのため、校内の生徒指導に係る組織体制を再確認し、取組を強化することが重要です。

つきましては、下記の事項に留意いただき、新学期に臨むにあたり児童生徒の心のケアに取り組むとともに、児童生徒等の命に係る事件・事故の未然防止に積極的に取り組んでいただきますようお願いいたします。

教育事務所にあっては管内の市町村教育委員会に対して、市町村教育委員会にあっては所管の学校に対して周知いただくとともに、適切な対応がなされるよう配意願います。

記

1 校内における問題行動の早期発見、早期対応に向けた取組について

- (1) 児童生徒は、家庭環境を含め、他の大人から見ると些細に思えることでも、想像以上のプレッシャーやストレスを抱え、孤立している可能性があることを念頭に置いて指導に当たること。
- (2) 児童生徒の不安や悩みの背景には、心身の不調や、学業不振（学習課題に関することを含む）、家庭や進路の問題等があることを全教職員が理解すること。なお、精神疾患に関しては、状態が安定しているように見えていても、直後に事故が発生することもあることから、専門家や医療機関等と連携して対応すること。
- (3) 自分の悩みや不安は友人のみに限らず、信頼できる大人に相談するよう児童生徒の発達段階に応じて指導すること。あわせて、24時間電話相談やSNS相談など、学校以外の相談窓口の周知を行うこと。
- (4) 児童生徒から「死にたい」「消えたい」等の発言等があった場合は、安易に励ましたり叱責したりすることはせず、気持ちを受け止めて話を聴くなど、全教職員が寄り添った対応を徹底し、安全を確保すること。
- (5) 少しでも気になる児童生徒を把握したときは、特定の教職員で抱え込まず、直ちに管理職に報告し、学校全体で対応にあたること。

2 家庭との連携について

- (1) 児童生徒の心のケアに関しては、学校や家庭間において小さなことでも情報共有を図ることが重要であることから、電話連絡や家庭訪問等様々な機会を利用するなど、家庭と積極的に連携し、継続的な悩みや困難な状況の把握に努めること。
- (2) 児童生徒の悩みや異変を把握した場合には、家庭においても気持ちを受け止め、話を聴くことが重要であることから、継続的な児童生徒の見守りを依頼すること。

3 関係機関等との連携について

児童生徒等の命に係る事件・事故は複合的な原因・動機を有していることから学校のみで事案を抱えることなく、警察や医療・福祉機関などの関係機関等との連携を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家と協力して対応に当たること。

担 当 埼玉県教育局県立学校部生徒指導課
生徒指導・いじめ対策・非行防止担当
上遠野 清水

T E L 0 4 8 - 8 3 0 - 6 9 0 8

F A X 0 4 8 - 8 3 0 - 4 9 5 2

E-mail a6740@pref.saitama.lg.jp